



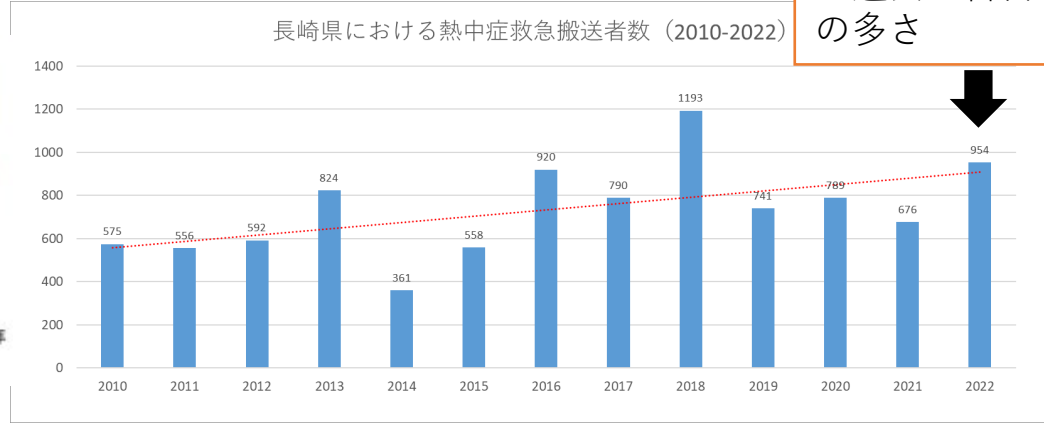
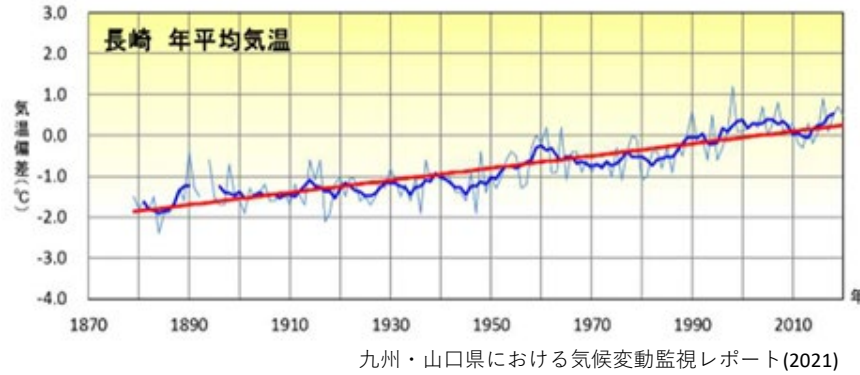
長崎県  
環境保健研究センター

Nagasaki Prefectural Institute of Environment and Public Health

# 長崎県における熱中症に関する調査研究 (研究期間: R2~R4)

# 研究背景

直近のR4年度  
は過去 2 番目  
の多さ



全国的に熱中症患者が増加するなか、長崎県においても熱中症救急搬送者数は増加傾向にあり、対策は急務！

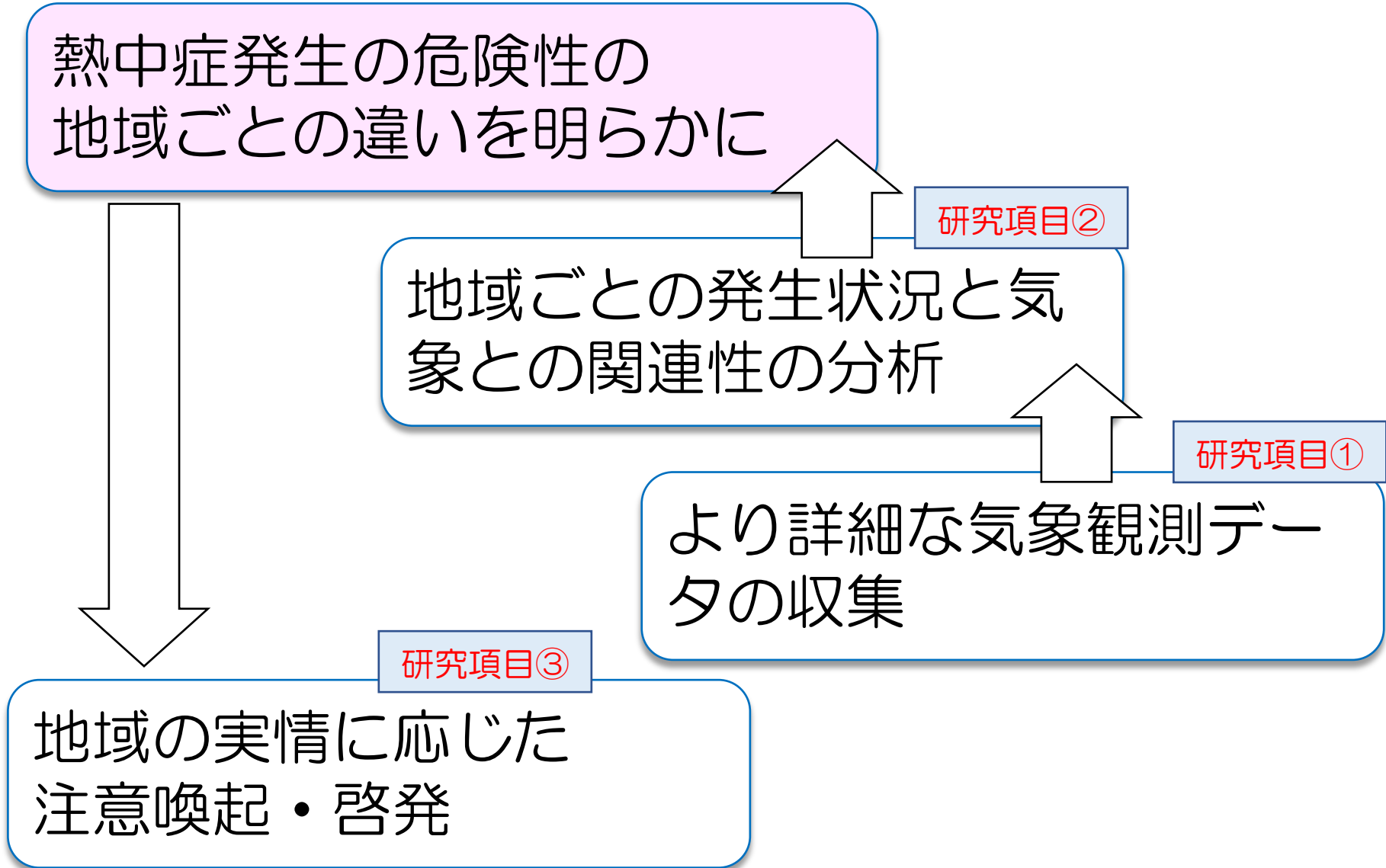
長崎県は離島を含め南北に長くまた地形も複雑であるため、場所によって気候が異なることが考えられます。また、地域ごとの人口や年齢層等の分布にも偏りがあることから、熱中症発生のリスクには地域特性があるものと考えられます。

本研究は、詳細な地域ごとの熱中症リスクを調査することで、効果的な熱中症予防に関する啓発を行うことを目的とします。

↑ 図中のマークは気象庁観測点（暑さ指数（WBGT）公表地点のみ抜粋）

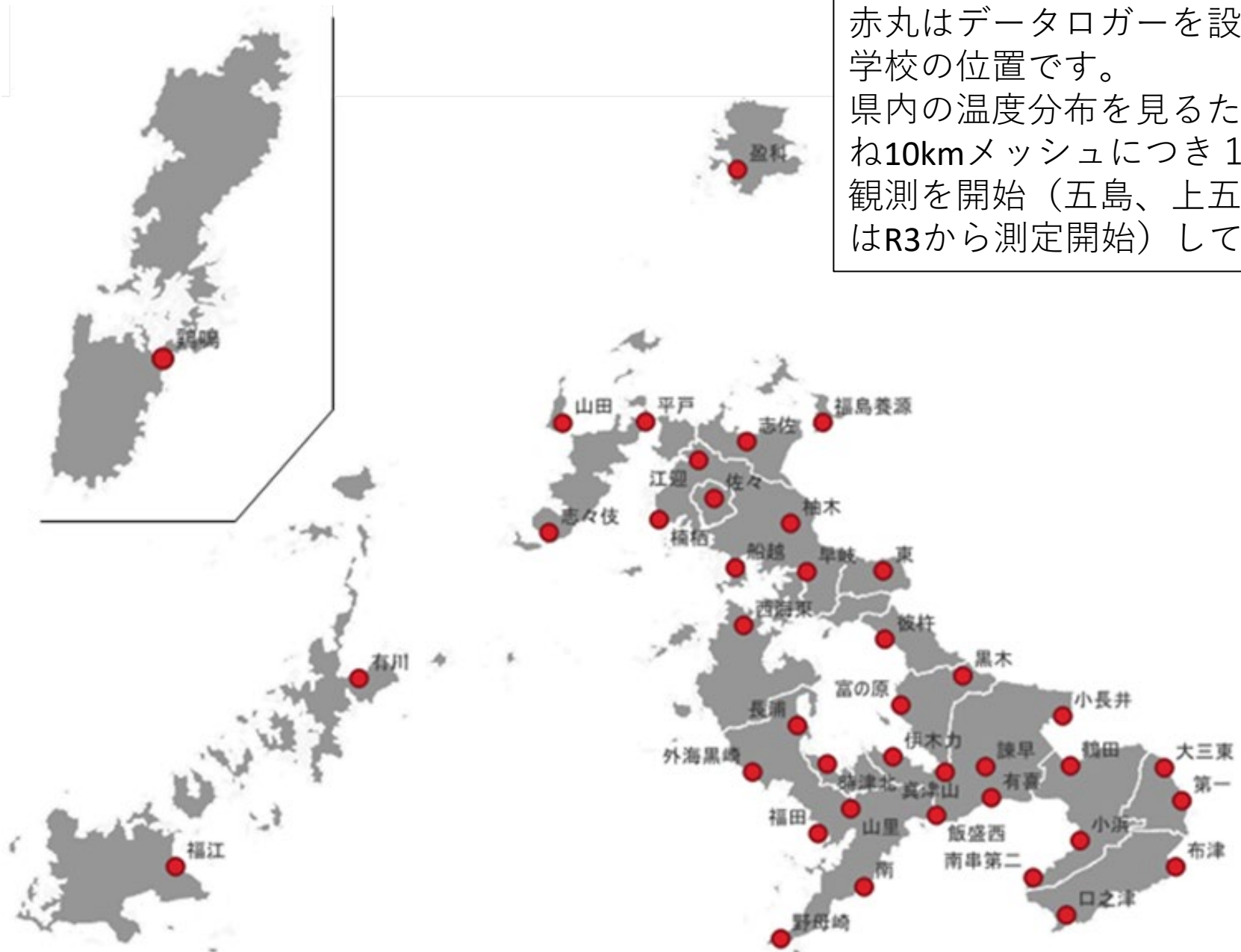
本研究は地域ごとの熱中症リスクを調査することで、効果的な熱中症予防に関する啓発を行うことを目的としています。県内全域のデータを得るため、小学校の協力のもと気象データの観測を行いました。

# 研究の概要と研究項目



# 調査地点 (R2-R4)

赤丸はデータロガーを設置した小学校の位置です。  
県内の温度分布を見るために、概ね10kmメッシュにつき1地点で観測を開始（五島、上五島、対馬はR3から測定開始）しています。



# 気象データの観測方法

## 【気象観測】

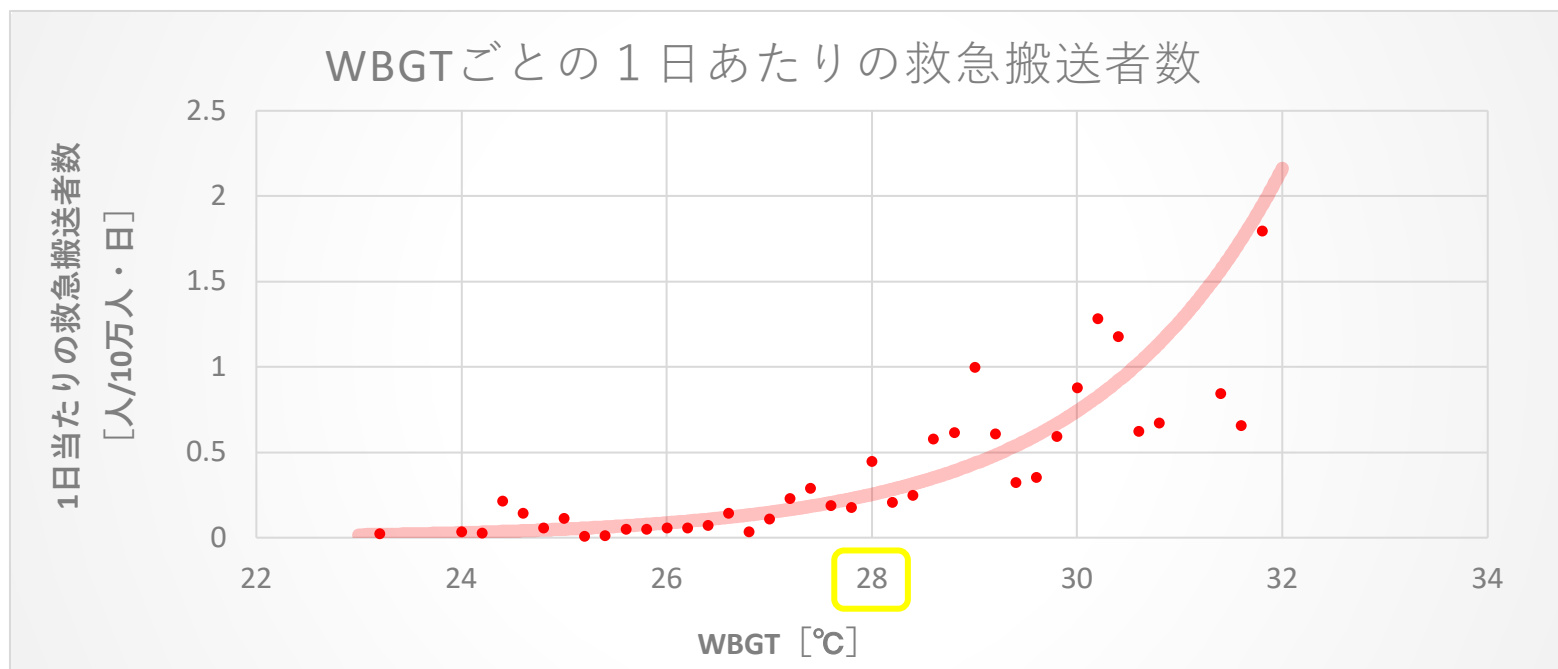
気象データ（気温、湿度）の観測にはデータロガーを使用し、小学校に設置されている百葉箱を利用させていただきました。



百葉箱が無い（又は老朽化している）  
小学校には超小型百葉箱を設置

# WBGTと救急搬送者の解析

観測した気象データ等に基づいて暑さ指数（WBGT）を推計し、県内の地域ごとの暑熱特性や熱中症救急搬送者数との関係を解析しています。  
得られた結果から、地域の実情に応じた効果的な熱中症予防に関する啓発を行います。



↑ 県内全体の救急搬送者数とWBGTの関係について解析した結果（一例）  
一般的にWBGTが28°Cを超えたあたりから熱中症患者は急激に増加すると言われてはいますが、本県においても同様の傾向が出ています。